



和(輪)のまちだより

発行責任者	2022年(令和4年)1月1日
印刷	長野市権堂町2201-20 権堂イーストプラザND1階 第四地区住民自治協議会会長 電話 026-262-1365 有限会社 長野プリントサービス

2021.12.01 現在 第四地区現況 ()前年比
世帯数/2,475 戸(108.3%) 人口/2,699人(98.2%)-49人

世帯数/令和3年度世帯数調査による
人口/長野市企画課統計資料による

☆第四地区は「諏訪町」「西後町」「県町」「南県町」「妻科」「新田町」の6町で構成されています☆

明けまして おめでとうございます

新年のづい挨拶

第四地区住民自治協議会会長 横田 悦二郎

新年明けましておめでとうございます。

この2年間程はコロナ禍に襲われ、日本のみならず世界中の人達に恐怖と不安を与えました。幸いにも私たちの住む第四地区の人たちには、直接その災害が襲いかかることはありませんでした。これは住民の皆さまが一人一人、感染予防に務めて頂いたことでできたことだと思います。改めて皆さまに感謝申し上げます。

一方、新型コロナウイルスは私たちに様々なことも教えてくれました。私たちは感染防止の目的で人との接触を無くすべく「巣ごもり」を強いられました。コロナ禍前にはマスクなしで、誰とでも自由に会って「日常的な会話」を交わすことができましたが、コロナ禍でそれがなくなつて改めて「人と人の繋がりの大切さ」を痛感させられました。残念ながら我々住民自治協議会の活動もこの間、多くのイベントの中止を余儀なくされました。本来、住自協活動の最大の目的は「活動を通して住民同士の繋がりを深め、共助をしながら安全安心で楽しい生活環境を作る」ことにあります。今年はこの2年間の活動の空白を埋めるべく、できるだけ多くの「繋がりにイベント」を再開したいと思っています。

今年は一時期延期された善光寺御開帳も開催され、多くの観光客が私たちの地域にも来訪されます。加えて南県町にはマンションも新築され、新しい住民が加わり、県立大学学生寮にも多数の学生が戻つて又私たちと一緒に生活することになったり、若者達が新規ビジネスを立ち上げるための新しい拠点ができる等、第四地区はコロナ禍以前以上の賑やかな地域になることが期待されています。

今年も住民自治協議会へのご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。私ども第四地区住民自治協議会評議委員は総勢34名で、住民の皆さまの健康と安全・安心を増して頂くことを目的に、各種活動をしています。一昨年、昨年と2年続いた新型コロナウイルスの影響で、計画した事業の多くが中止に追い込まれてしまいましたが、ここに来て、明らかに収束感が出てきました。この機を逃さず、2年間のブランクを取り戻すよう事業を再開して頑張つて参りますので、第四地区にお住いの皆さまのご理解とご協力及び各種事業への積極的なご参加を本年も引き続きお願い申し上げます。

第四地区住民自治協議会評議委員一同

次々と復活! 住自協の行事

安全関連施設の見学
奥裾花ダムと裾花ダムを
を同日見学

昨年は開催を断念した住民の見学会を11月24日(水)28名の参加者で実施しました。本来、この見学会は安全と環境に関連する施設を見学するものですが、予定していた環境施設の見学が不能になったため、昨今、日本各地で河川の氾濫が頻発していることから、裾花川の洪水を心配する人が増えてきています。そこで、奥裾花と裾花の両ダムで、洪水対策に24時間、365日、懸命に取り組んでいる姿を見て頂き、安心感を高めて頂くことと企画しました。

当日は今年初の降雪に見舞われましたが、参加者は洪水調整機能の万全さの説明を熱心に聞き、ダムの放水口が無難に機能しているのを見て、無闇に心配する必要がないことを確信した様子で、「今後も安心して生活できるとおっしゃっていました。」



写真上/係員の説明を熱心に聞く参加者、写真下/今年初の降雪の中ダムに向かう参加者



いきいき交流会
75歳以上のご高齢者
元気に80名集合

10月27日(水)、県町の犀北館ホテルで第四地区内にお住いの75歳以上の高齢者約80名が集合し、一昨年以來となる「いきいき交流会」が開催されました。

「コロナ禍でなければ、歌を歌うなどのアトラクションを楽しんで頂くところですが、今年は感染防止の観点から、アトラクションは実施せずに、犀北館自慢の和食の昼食と、食事後に、同じテーブルのみなさんとお喋りを楽しむというシンプルな形で開催しました。

コロナ禍で外出もままならなかったため、久しぶりに会う友人、知人とお喋りの花を咲かせ、帰りにはお土産が付いているのを知った参加者の一人は、「こんなに楽しい会なら、百歳まで続けて参加するよ」と元気にお話ししていました。」



写真右/横田会長の挨拶を聞く80人の出席者
写真左/楽しい食事風景、その後、お喋りを楽しみました



ペタンク大会 豪華賞品目指して16組32人 激闘繰り広げる

2年ぶりに開催されたペタンク大会。今回は2人一組、コートは極小という超簡素化したルールで、16組32名の参加で11月27日(土)、後町ホールで熱戦が繰り広げられました。

予選リーグと決勝リーグで各チーム6試合を行い、1位から16位までの順位を決めました。

その結果、優勝チームには「県町浜名屋のうな重特上のお食事券2枚」、優勝以外も、最下位チームまで全てのチームの全員に浜名屋の上、中、並のお食事券と「南県町こうさかフルーツのみかん」など、いずれかの賞品が行き渡り、出場者は満面の笑みを浮かべ、「来年も絶対に出るよ」と言っていました。

この大会の賞品は毎回、全て第四地区内で調達することとして、参加頂いた方誰でも喜んで頂けるものを考えて用意しています。しかしながら、参加者は毎回定員ぎりぎりという状況で伸び悩んでいます。来年も賞品に趣向を凝らして開催する予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしています。



賞品のうな重とみかん
(資料映像)



4コートに分かれて真剣な表情で熱戦を繰り広げる参加者

役員研修旅行も復活

昨年は実施できなかった役員研修旅行は、11月17日から一泊で、富山、金沢方面を研修地として実施しました。

最初の研修は、全国の先駆けとしてコンパクトシティ化のために、路面電車を次世代型路面電車システム(LRT)とした富山市のライトレールに実際に乗車して、その効果のほどを体験しました。

鳴り物入りでLRT化したものの、中心市街地の人口が顕著に増えるなどの効果が出ているとは言いがたく、長野市などの地方都市は、コンパクトシティを推進させるには幾多の難題があることを実感させられました。

つぎの研修地は、越中おわら風の盆で有名な八尾の街並みを見学後、「八尾観光会館」で豪華絢爛な曳山を見学し、長野の祇園祭を盛り上げる方策を探るきっかけになったようでした。

最後に、金沢の近江町市場に続いて「蓄音機館」を見学し、百年近く昔の、電気を一切使わない蓄音機の響き渡る華麗な音に、英気を養うことができました。



写真①八尾の街並みをガイド付で見学
写真②蓄音機の重厚な音に耳を傾ける
写真③ライトレール乗車後の参加者

「住み続けていて良かった」と言って頂ける第四地区を目指して



第四地区は善光寺表参道を東端に、裾花川が西端を流れ、明治以降は県庁が置かれた「長野県の中核」でもある地域です。現在は「諏訪町」「西後町」「県町」「南県町」「妻科」「新田町」の6行政区から成り、人口は約3,000人、面積は長野市32地区中最も小さい1km²にも満たない地区です。昔から多くの文化人も好んで住み、誰からも憧れの眼差しで見られる、長野市中心市街地の一角の、繁華街から閑静で自然豊かな住宅地までを抱える地区です。

そんな第四地区の人口は、昭和30年代をピークに減少を続けましたが、7年前の平成27年の2,679人を底にして、その後、僅かずつですが増加に転じ、復活の兆しが見えつつあります。(右上に続く)ア

ア(左下から続く) この機を逃さず、長野市の中心市街地の活性化を迅速に進めるよう、当協議会は長野市に要請を続けてきました。しかし残念ながら、「市街地活性化はそこに住む人たちの地域エゴで言うだけのものだ」とか、「何で中心市街地に限定しなければならないのだ」といった声も聞こえて来るのも事実です。

「長野市の中心市街地活性化とは、単に道路や建物、水路の景観を整備すれば良いなどということではなく、年間600万人も訪れると言われる善光寺の観光客を直行直帰させることなく、市街地にまで足を伸ばしてもらい、人の流れを増やすこと」に気付くべきです。

かつてのように中心地に大勢の人が住むということは考えづらくなってきています。だからこそ、中心市街地を観光と商業の一大集積地として蘇らせ、中心市街地を魅力ある場所として価値を向上させるということ、長野市中心市街地活性化の終着点とするべきです。

現状は、善光寺を訪れる観光客の90%以上は、善光寺より南の中心地に魅力を感じないため、善光寺周辺から直行直帰するか、近隣市町村に去ってしまっています。このうち20%だけでもの観光客が善光寺以南まで足を伸ばせば、毎日平均して3千人から5千人もの人々が今より多く表参道を往来するようになるのです。

街に観光客が増えると、人流が増し、それを狙った商店が増え、公共交通が整備され、付加的には定住者も増えるのです。これが長野市の真の市街地活性化ではないでしょうか。

街の往来者が増えて賑わいを取り戻せば、今でも高い中心市街地の土地価格は上がり、市の固定資産税収が増え、中心市街地に住む人だけではなく、全長野市民に税収増の恩恵が行き渡るのです。

現在、中心市街地が産み出す固定資産税は約40億円と試算されます。もし、活性化が成功すれば、これが80億、100億円にも増え、増えた分は全長野市民のために使われるようになるのです。

これは決して地域エゴやノスタルジー(郷愁)で言っているものではありません。土地の価値が上がると、それに伴って、中心市街地に住む私たちの固定資産税も上がるという両刃の剣であることを敢えて言うことからもお解り頂けると思います。

これが遠いことではなく、近い将来に実現し、第四地区に住む全ての皆さまが声をそろえて「住み続けていて良かった」と言って頂けるよう、今年も第四地区住民自治協議会は活動をして参ります。